

① 一休み  
② 見学  
③ 小人

④ あおぞら  
⑤ ほんき

② 大きなまが

② あウ  
③ いエ  
④ うア

③ ウ  
④ ア

③ ① オ  
② エ  
③ イ  
④ ア  
⑤ カ  
⑥ ウ

④ ① 土砂や木  
② ウ

③ 川の流れに  
④ ア ② 2  
③ イ ① 1  
④ ウ ① 1

配点

① 各2点×5=10点

②~④ 各5点×18=90点

<計>100点

① 「一休み」は「人が休む」という意味ではない。② 「見学」の「見」は「貝」とはつきり区別できるように書く。③ 「小人」と書いて「しょうじん」と読めば、「子ども」のことである。④ 「空〓そら」の前に「青〓あお」がついているので、「そら」は「ぞら」となる。⑤ 「本気」は「まじめな心」「真剣な気持ち」のことである。

② 1 線①のつぎの文が「……のです」となっており、これが「びっくりしてしまいました」の理由を説明している。このような文のつながり方はよく出てくる。ぬき出すときには、の後ろの「いたから。」にうまくつながるかどうかわかめよう。

2 アの「どすん」は、重たいものが落ちる、重たいものをおろすようす、イの「ひらひら」は、紙や花びらなどの軽いものが風をうけてひるがえるようす、ウの「ぶるぶる」は、体がふるえるようす、エの「へなへな」は、力が入らずすわりこんだりたおれこんだりするようすをそれぞれあらわすことばである。

3 「がたがたふるえて」いた「わたし」が、「へんなさけび声をあげると、足の力がなくなつて……さか道にすわりこんでしまつた理由を答える問題である。「がたがたふるえて」いたのは、大きなくまがいてこわかつたからだ、ここですますこわくなつてしまつたのはなぜかという問題である。直前に書かれているのは、「大きなうなり声」と「大きくあけたくまの口」である。

4 「期待」は、おこつてほしいことを待ち望む気持ちである。くまに「かみつかれ」たり、「なぐりつけられ」たりしたいはずがない。

③ 動物の名前をふくむことわざはたくさんあり、よく出題される。

① 自分が立ち去つた跡が見苦しくないように、きちんとしておくべきであるということ。

② まだはっきりしていないことに期待して、あれこれ計画を立てること。

③ もともと価値のあるものは、落ちぶれてもまだそれなりの価値があるということ。

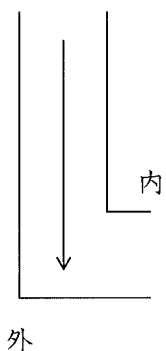
④ いくら言つて聞かせても何のききめもないこと。

⑤ 運の悪い人に、さらに不幸が重なること。

⑥ 名人でも失敗することがあるということ。

④ 1 次の文に「多くのものが……」と書かれているが、字数も合わないし、「何」ときかれて「多くのもの」では答えにならない。続きを読むと、「流れのおそいところでは土砂や木などがたまります」と書かれていて、この「土砂や木」が「多くのもの」にふくまれていることがわかる。

2 これは、頭の中でようすを思いうかべることが大事な問題でもあるが、文章の中にもヒントがかくされている。「しん食」の反対である「たい積」について書かれているところ、つまり最後の段落に、「川の曲がっているところの内側……ではたい積が生じます」と書かれている。「たい積」は、土砂がつもることだから、「川底や川岸がけずられる」「しん食」の反対なのである。



流れてきた水は、川が曲がっているところでは、外側につきあたる。したがって、外側が「けずられる」。

3 「しん食」ということばが出てくるところをさがす。とくに、はじめに出てきたときに説明されていることが多い。

4 アについて。「川底のしん食はおもに川の上流でおきますが、中流や下流でも……」と書かれている。イについて。最後の一文は「たい積が進むと、川の流れが変わり……もあります」となっている。ウについて。「土石流では、大きな岩から細かい泥までが……」と書かれている。